

令和4年3月3日



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター 東北育種場

雄勝中学校の「奇跡の桜」の後継樹が里帰り ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

りんぼく

ポイント

東日本大震災の津波に襲われた後も生き残った「奇跡の桜」（宮城県石巻市）の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 東北育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター（茨城県日立市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、株式会社ナッシュの高橋重樹氏から増殖の要請を受けた「奇跡の桜」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和4年3月10日（木）13時20分

場所：雄勝中学校 校庭（石巻市雄勝町大浜字小滝浜 2-2）

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 久保田 権（くぼた ごん）

担当者：収集管理係 織邊 俊爾（おりべ しゅんじ）

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 加藤 智子（かとう ともこ）

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

本資料は、宮城県政記者クラブ、石巻市記者クラブ、岩手県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 306 件の要請があり、229 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 2 年度末現在）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回、里帰りするのは宮城県石巻市立雄勝中学校の「奇跡の桜」です。雄勝中学校は 2011 年の東日本大震災の時に津波に襲われて大きな被害を受けました。この時、校門のそばに植えられていて奇跡的に生き残った桜が「奇跡の桜」です。

しかし、被災した雄勝中学校は取り壊され、敷地もかさ上げされることになりました。「奇跡の桜」は、支援者のご尽力により、2012 年に東京都世田谷区に移されたのち、2013 年には雄勝の気候に近い山梨県甲府市に再度移植され、大事に育てられていました。

そして、新たな場所で新設された雄勝小・中学校の開校に伴い、2018 年、「奇跡の桜」は新しい学校の校木として 7 年ぶりに雄勝に戻ってくることができました。試練を耐えてきた「奇跡の桜」ですが、樹体の衰えが進んできていたため、2020 年 12 月に東北育種場（岩手県滝沢市）に対し相談が持ちかけられ、「林木遺伝子銀行 110 番」として後継樹を育成することになりました。2021 年 2 月には、東北育種場職員が「奇跡の桜」から枝を採取し、その後、東北育種場内でつぎ木による後継樹の育成を進めてきていました。

里帰りする苗木は、つぎ木で増殖したクローンの苗木なので、親木と同じ遺伝子を持っています。二代目校木の「奇跡の桜」として成長することが期待されています。

図、表、写真等



2018 年に雄勝中学校に戻ってきた「奇跡の桜」

写真提供：高橋重樹氏



「奇跡の桜」の枝をつぎ木して育てた後継樹